「早期治療を行った上突咬合症例を振り返りその意義を考える」

新潟県新潟市　笹川矯正歯科　笹川　美也子

上突咬合の早期治療を行った後、永久歯列期での治療、保定観察まで行った症例を２症例報告する。第１症例は８歳 10 か月から、第２症例は９歳０か月から、いずれもブラケット装置とヘッドギア装置を併用して、約１年間、早期治療を行った。いずれも女児。

両症例とも、早期治療で舌側に傾斜移動した上顎前歯が、永久歯列期での治療開始時には、ほぼ元の傾斜に戻っていた。その原因として、第１症例は、リップシールが弱いこと、第２症例は、前歯をすり合わせながら下顎を前に出す癖が疑われた。形態から判断すると、両症例とも早期治療は必要なかったと思う。

早期期治療を行う意義として考えられる「早期治療を行うことで永久歯列期での治療が不要になる､あるいは容易になる」という項目には２症例とも当てはまらなかった。「外傷予防のため」になったかどうかは評価できない。「口唇閉鎖機能の回復」も行えたかどうか疑問である。しかし、皮肉にも「やっぱり永久歯列期で治療しないと治らない」という患者の気持ちの切り替えには役立ったのかも知れない。

両症例とも、永久歯列期での治療は、第１症例は小臼歯を抜歯して、第２症例は非抜歯で、いずれもマルチブラケット装置で行った。

それぞれの症例を振り返り、早期治療の意義についての考察を深めたい。

さらに、両症例とも、保定後の歯列咬合はほぼ安定していた。早期治療後には後戻りした上顎前歯の傾斜が、なぜ永久歯列期での治療後には安定傾向を示したのか、それに関わる要因についても考察してみたいと思う。

【略歴】

笹川　美也子（ささがわ・みやこ）
1991 年 3 月　新潟大学歯学部卒業
1991 年 4 月　新潟大学歯学部歯科矯正学講座入局
1995 年 3 月　新潟大学大学院歯学研究科修了
2000 年 8 月　新潟市秋葉区（旧　新津市）にて笹川矯正歯科開院